

各位

会社名 ラクセル株式会社
 代表者名 代表取締役社長 CEO 松本 恭攝
 (コード: 4384、東証第一部)
 問合せ先 取締役 CFO 永見 世央
 (TEL. 03-6629-4893)

業績予想の修正及び法人税等調整額(益)の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2020年9月10日に公表した2021年7月期(2020年8月1日～2021年7月31日)の業績予想を下記の通り修正いたします。また、法人税等調整額(益)を計上する見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 2021年7月期通期業績予想数値の修正(2020年8月1日～2021年7月31日)

	売上高	営業利益	non-GAAP 営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	27,000 ～28,000	△150 ～50	300 ～500	-	-	-
今回修正予想 (B)	29,650 ～30,150	110 ～190	720 ～800	40 ～120	60 ～140	2.11 ～4.91
増減額(B-A)	2,150 ～2,650	140 ～260	300 ～420	-	-	-
増減率(%)	7.7 ～9.8	- ～280.0	60.0 ～140.0	-	-	-
(ご参考)前期実績 (2020年7月期)	21,494	△244	△159	△368	△494	△17.64

(注) non-GAAP 業績値は、財務会計上の数値(GAAP、日本基準)から非経常項目やその他特定の調整項目を一定のルールに基づいて控除もしくは調整したものです。当社の恒常的な経営成績を理解するために有用な情報と判断しており、当社は non-GAAP ベースで予想値を開示しております。具体的には、株式報酬費用を中心に、当社が控除すべきと判断する一過性の利益や損失などを控除もしくは調整しております。

(2) 修正の理由

当期においては、新型コロナウイルス感染症の拡大に関して緊急事態宣言が断続的に発令されるなど、市場環境は当初想定より悪化したものの、売上高につきましては、前回発表予想を上回る前年同期比 37.9%～40.3%の成長を見込んでおります。ラクセルセグメントにおいては外部環境の変化に対応し、封筒やダイレクトメール等在宅需要を取り込む商材や、新規商材のノベルティ等が成長に寄与し、当初計画を上回りました。また、ノバセルセグメントは新規顧客の増加及び放映案件の大型化により成長速度が加速し、ハコベルセグメントについても飲料・小売業界の顧客からの都市内・ラストマイル輸送が好調に推移し、それぞれ継続的に成長しております。

利益面につきましては、各セグメントにおいて売上総利益率の改善に注力し、当社企業価値の源泉である売上総利益が7,100百万円～7,200百万円となる見込みです。営業利益(non-GAAP)については、720百万円～800百万円を見込んでおり、プラットフォーム価値を高めるための再投資を積極的に行う一方、継続的な売上総利益率の改善及び生産性向上の取り組み等により、前回発表予想を大きく上回る見込みであります。なお、通期の営業利益(non-GAAP)は前回発表予想を大幅に超過することが確実であるため、第4四半期においては、来期以降の成長に向けた投資を実施する予定としております。また、当期純利益につきましては営業利益の増加及び法人税等調整額(益)の計上により、60百万円～140百万円を見込んでおります。

(注) 上記の業績予想につきましては、現時点で当社が入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の新型コロナウイルス感染症の拡大又は収束の影響及びオリンピック開

催をはじめとする外部環境の変化等、様々な要因によりこれら予想数値とは異なる場合があります。

2. 法人税等調整額（益）の計上

当期の業績及び今後の業績の見通しを踏まえ、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、回収可能性が見込まれる部分について2021年7月期において繰延税金資産198百万円を計上し、法人税等調整額（益）を同額計上する見込みです。

以 上